

コスモス 5月号

第74巻 第5号

◆宮柊二カレンダー(86) 五月の歌

春おそ晩く五月のきたる我が郷くにや木々りよくきん緑金に芽
ぶきわたれる
歌集『緑金の森』

第十歌集『緑金の森』の歌集名になった一首である。柊二の故郷新潟の五月の様子を詠む。上句には日本海側の雪深い故郷新潟の長い冬が明けて、やつの五月であるという思いが出ている。その時間の移ろい、その間の期待感なども感じられる。そして五月の今、自然の営みの中で木々の緑が輝いて芽吹き渡っているのである。何とも言えない解放感と安堵感が感じられる。一首の要は「緑金」という言葉であり、この言葉の力によって一首が立ち上がり、さらに広がりが見える。
(能勢玉枝)